

小学校・中学校 特別の教科 道徳

重点1 指導の明確な意図をもつことで、「主体的・対話的で深い学び」を実現する

- 学習指導要領解説を基に、道徳的価値を理解し、ねらいや指導内容を明確にしている。(指導の明確な意図：**①**道徳的価値)
- ねらいや指導内容に関連する児童生徒のよさや課題を把握し、児童生徒に考えてほしいことを明確にしている。(指導の明確な意図：**②**児童生徒の実態)
- 児童生徒が道徳的価値を深めていくために使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法、学習展開を明確にしている。(指導の明確な意図：**③**教材の活用)
- 問題意識をもち、自分との関わりで考えることができるように、児童生徒が考えたいような発問や資料を提示するなど工夫している。「主体的な学び」
- 多面的・多角的に考えることができるように、教師が問い返したり、学習形態や板書を工夫したりするなどして、児童生徒が様々な考え方、感じ方に触れることができる機会をつくっている。「対話的な学び」
- 児童は自己の生き方(生徒は人間としての生き方)について考えを深めることができるように、自分の考え方、感じ方をより明確にできるようにしたり、自らを振り返ったりこれからのことを考えたりする場面を設定している。「深い学び」

【ポイント】

- ・児童生徒の実態を踏まえて、「どのようなことを考えてほしいのか」、「どのようなことに気付いてほしいのか」を明確にして授業を構想しましょう。
- ・児童生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような教材として、「島根県版道徳教育郷土資料『しまねの道徳』」を年間指導計画に位置づけ、活用することも検討してみましょう。

上記の重点を意識することで

- ① 全体計画、全体計画の別業及び年間指導計画を基にPDCAサイクルを意識した授業づくりを行い、道徳教育の要となる道徳科の授業を充実させましょう。
- ② ①を要として、各校の実態に応じて全教育活動を通じて行う道徳教育を推進しましょう。

★特別の教科 道徳における ICT 活用

道徳教育において ICT を活用することによって、次のことが可能になります。

- ・道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深める
- ・児童生徒が、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える
- ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を、教員が継続的に把握し、指導に活かす

【道徳科の学習過程での ICT 活用例】 ※活用の目的は道徳性を養うことであることに留意しましょう。

○導入の段階

- ・児童生徒が道徳的価値についての問題意識をもつことができるように、児童生徒の実態や問題をグラフや画像、映像等で提示する。

○展開の段階

- ・教材を画像や映像等で提示する。
- ・自分の考えをタブレット上に示し、互いに共有することで他者の考えを知り、多面的・多角的に考えられるようにする。

○終末の段階

- ・自己を見つめるために授業の振り返りなどをタブレット上に示し、授業ごとにその記録を蓄積する。

重点2 「指導と評価の一体化」を実現する

- 授業において、学習指導過程で期待する児童生徒の学習を具体的にイメージし、児童生徒の「学習状況」を的確に把握している。
- 道徳科の学習を積み重ねたことによる児童生徒の「道徳性に係る成長の様子」を的確に把握している。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりのまとまりを踏まえた評価をしている。
- 児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価を行っている。
- 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したり、児童生徒自身のエピソードを累積したりしている。
- 発言が多くない児童生徒、考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒等、評価する際の基礎資料がなかなか見いだせない児童生徒についてどのように見取っていくのかを校内で検討している。

【ポイント】

- ・道徳科における評価は、児童生徒の道徳科における学習状況を「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか」、「道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているかどうか」の2つの視点で見取りましょう。
- ・道徳科の評価は、児童生徒にとっては「自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの」、教師にとっては「指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの」です。年間指導計画、教材や指導方法、道徳科の評価の在り方等について、校内又は学年部内で定期的に検討を行いましょう。

高等学校 道徳教育

重点1 学校の教育活動全体を通じて人間としての在り方生き方に関する教育を行う

- 中学校までの道徳科等を通じて深めた道徳的諸価値についての理解を基にしながら、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、人間としての在り方生き方に関する教育を適切に行っている。
- ホームルーム活動、学校行事などの特別活動や、就業体験活動、ボランティア活動、地域の行事への参加などの体験活動の場を通して、日常生活における道徳的な実践の指導を行っている。
- 学校通信やホームページなどを活用して道徳教育に関する情報を積極的に発信したり、家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との連携を図っている。

【ポイント】

- ・特に、公民科の「現代社会」及び「倫理」(新学習指導要領では必履修科目「公共」及び選択科目「倫理」)並びに特別活動を、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導場面として重視しながらも、全ての教育活動を通じた道徳教育の充実を図ることを大切にしましょう。

重点2 道徳教育の全体計画を作成し、全教職員が協力して道徳教育を展開する

- 校長の明確な方針のもとに、道徳教育推進教師が中心となって、全教師の協力により作成している。
- 全体計画の作成に当たっては、各学校や生徒の実態に応じて、取扱う内容を重点化して示している。
- 全教職員による一貫性のある道徳教育を推進するために、校内の研修体制を充実させ、全体計画の実施状況を評価し改善している。

【ポイント】

- ・全体計画の作成に当たっては、理念だけに終わることなく、人間としての在り方生き方に関する教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を示すことが必要です。その際、小・中学校の道徳教育との接続を意識しましょう。

小・中・高を通じて身に付けさせたい
資質・能力(目指す子どもの姿)

- ◎道徳的諸価値の理解に基づき、自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成することができる。
- ◎物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての在り方生き方について自分自身の考えを深めることができる。

研修等について

○中学校道徳教育講座

9月22日(金) <午後>

島根県教育センター

※受講対象者

中学校、義務教育学校後期課程及び特別支援学校(中学部)の教員

○県立学校道徳教育研修

6月19日(月) <午後>

※各校からオンラインで参加する。

※受講対象者

高等学校の特別活動担当者

特別支援学校高等部の特別活動担当者

しまねの教育情報 Web EIOS		文部科学省 道徳教育アーカイブ
小学校 道徳	中学校 道徳	
		
小学校道徳のページ	中学校道徳のページ	道徳教育アーカイブ